

教育研究業績書

令和 5 年 5 月 24 日

氏名 柘植 薫

研究分野	研究内容のキーワード
看護学・臨床心理学	心理専門職、がん患者、看護倫理学、ヒトT細胞白血病ウイルス1型(HTLV-1)、包括的子育て支援

教育上の能力に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例 ・心理学を学ぶ学生の医学専門用語や具体的な医療従事者に関する知識の習得のためのサポート	令和2年4月 ～令和4年11月	・心理専門職養成課程では、他の医療職養成課程と比べて医療に関する授業が少ない特徴がある。香川大学医学部臨床心理学科3年次「災害ケア・緩和ケア」、4年次心理学実習Ⅱにおいて、医学用語や医療系他職種の特徴について講義を行った。授業や実習において、急性期や終末期の臨床現場を目の当たりにした学生が、過度に心理的なダメージを受けることなく、最新のがん治療や緩和治療の正しい知識をもって、多職種連携、心理専門職の役割について冷静に学んでもらうため、医療用語の説明をわかりやすく行い、隣地実習後は各学生の質問を受ける時間を1時間以上設け、学生が不安を持ち帰らないように配慮した。
・看護職養成課程発達心理学講義において、若年層患者特有の悩みを学生自らが考えられる授業設計	平成29年4月 ～平成30年6月	佐賀市医師会立看護専門学校看護専門課程1年「発達心理学」において、既存の発達心理学理論に加え、近年国のがん対策として注目されているAYA世代(思春期・若年層15歳～40歳位)のがん・社会的特徴や、2012年から全例妊婦で実施されているHTLV-1スクリーニングについて、講師が実際に関わった症例を挙げて紹介し、必要な支援について学生同士のディスカッションの時間を設け、支援のポイントについて講義を行った。臨床現場で必要とされる周囲とコミュニケーションを図りながら解決していけるように指導を行った。
・診療におけるカウンセリング技術、面接に関する授業サポート	令和3年12月	・香川大学医学部医学科4年次臨床実習前特別講習において、遺伝カウンセリングと心理カウンセリングの違い、カウンセリング技術の共通点について講義を行った。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・心に関わる職業について高校での授業</li> </ul>	<p>令和4年10月</p>	<p>医学科学生が医師以外の専門職から授業を受けることで、連携の実際や重要性について学びを深めた可能性がある。また、隣地実習に臨む学生のメンタルヘルスに関しても自分や友人への心の変化の気づきを促した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県立三本松高校第25回虎丸ゼミにおいて福祉、看護、心理の職業に興味をもつ生徒20名程を対象に、がん診療のチーム医療の実際を紹介し、各職種の役割、特徴について40分程講義を行い、生徒や教員からの質問に応じた。演者が複数の資格を持ち、経歴が多様だったため、校長から授業の依頼を受けたもので、授業後の生徒から感想では、「受験勉強を頑張りたい」とあった。</li> </ul>
<p>2. 作成した教科書、教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀大学 HTLV-1 専門外来教育用 DVD の作成</li> </ul>	<p>平成24年12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産婦人科スタッフ向け HTLV-1 母子感染予防に関する知識、キャリア妊婦のカウンセリングに関する教育用 DVD を作成し、佐賀県内の産科医療施設に配布した。</li> </ul>
<p>3. 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学における評価</li> <li>・高校における評価</li> </ul>	<p>令和3年4月～現在に至る</p> <p>令和4年12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公認心理師養成課程における実習指導者として登録された。</li> <li>・香川県事業による生徒と教職員向けのストレスマネジメントに関する授業において「悩みを抱え込まないようにしたい」「自分や相手のストレスに気づくようになった」「(教員から)生徒から相談が増えた」という感想があり、高評価であった。</li> </ul>
<p>4. 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香川大学腫瘍内科臨床心理実習指導者(心理学実習Ⅱ)</li> </ul>	<p>令和3年4月～令和4年11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川大学医学部に平成30年に開設した臨床心理学科の学生4年次を対象とし、がんセンター臨床心理士として、年間20名(2名ずつ5時間/日)を受け入れた。</li> <li>・臨床心理学科専任の教員や臨床現場の医療従事者と教育内容を検討、受け入れについて打ち合わせを行った。</li> <li>・事前オリエンテーションを90分実施し、心理専門職の特徴のほか、医療現場でのマナー、医療専門用語や実際に関わる他職種について講義、学生の質疑に応じた。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県臨床心理士会新人研修会</li> </ul>	<p>令和4年8月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得後5年以内の会員に対し「多職種のなかの臨床心理士を考える」というテーマで専門職の倫理観等60分講義を行い、質疑に応じた。「他職種を理解が連携や自身の専門性を高める上で重要と気づいた」と感想があった。</li> </ul>
<p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香川大学医学部医学科における教育実績</li> <li>・香川大学医学部臨床心理学科における教育実績</li> <li>・佐賀市医師会立看護専門学校看護専門課程における教育実績</li> <li>・志学館大学における教育実績</li> <li>・筑紫女学園大学における教育実績</li> </ul>	<p>令和4年12月</p> <p>令和2年4月～令和4年11月</p> <p>平成29年4月～平成30年6月</p> <p>平成27年9月</p> <p>平成25年11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部医学科4年次臨床実習前特別講習臨床ゲノム診療科担当遺伝カウンセリングロールプレイファシリテーター役（講義90×4）。医師以外の専門職として、実臨床に基づいた指導を行った</li> <li>・医学部臨床心理学科3年次「災害ケア・緩和ケア」（講義90分×8回）＋自宅学習において、2回授業を担当し（緩和ケアにおけるチーム医療、緩和ケア介入患者の心理的特徴について講義、シラバスにおいて自学学習に関して具体的な指示、課題レポートによる評価を行った。</li> <li>・看護専門課程1年「発達心理学」（講義90分×15回）。作成スライド、映像による講義、出席点、テストによる評価を行った。</li> <li>・志学館大学発達支援センター研修会（於鹿児島市）「当院HTLV-1専門外来および血液腫瘍内科病棟における心理支援について特徴と工夫」 心理学専攻大学院生、教員を対象に150分講義、30分質疑応答を行った。医療現場に従事する心理職介入の現状について紹介、学生から進路に関する質問や地域の活動に際した連携についてアドバイスを求められ、対応した。</li> <li>・平成25年度筑紫女学園大学第一回学生健康センター講演会「こころとからだのケア美人ってどんな人？」 大学生対象にメンタルヘルスに関する講義を60分行った。心の健康について関心をもつきっかけ作りを行った。</li> </ul>

<p>・高校における教育実績</p>	<p>令和3年11月 ～令和4年11月</p>	<p>・香川県令和3、4年度若年層向けの自殺予防・こころの健康づくり事業において、香川県内高校4校、生徒・教員向けに「こころのメンテナンス」について、対面もしくはzoomを用いて60分授業を行った。授業後アンケートでは教員から「また受けたい、生徒からの相談が増えた」生徒から「自分のストレスに気づいた」「誰かに話そうと思う」と高評価であった。</p>
<p>・医療従事者向けカウンセリング技法、患者年齢や疾患を考慮した心理支援に関する教育実績</p>	<p>平成31年2月</p>	<p>・中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム第21回緩和医療に関する集中セミナーin香川。(於 高松国際ホテル)「がん患者の心理と臨床心理士の役割」.約100名の医療従事者対象に40分講義、質疑応答を行った。</p>
	<p>平成31年3月</p>	<p>・第1回HTLV-1キャリア外来講演会。(於九州がんセンター 福岡市)「HTLV-1キャリア、妊婦に対するカウンセリングのポイント」.約100名の医療従事者対象に60分講義、質疑応答を行った。</p>
	<p>平成29年3月</p>	<p>・平成28年度HTLV-1母子感染対策事業医療従事者研修会。(於 宮崎県医師会館)「HTLV-1キャリア妊婦に対するカウンセリングの現状と必要性」.約100名の医療従事者対象に60分講義、質疑応答を行った。</p>
	<p>平成26年12月</p>	<p>厚労科研板橋班主催.平成26年度HTLV-1母子感染予防対策講習会。(於 大手町サンケイプラザ 東京)。「HTLV-1母子感染予防における臨床心理士の役割」 約200名の医療従事者・行政担当者対象に30分講義、後に録画資料として配信された。</p>
	<p>平成26年11月</p>	<p>・成26年度HTLV-1母子感染予防対策研修会。(於 春日市クローバープラザ 福岡)。「HTLV-1専門外来におけるカウンセリングの現状から考えるキャリア妊婦支援」. 約100名の医療従事者・行政担当者対象に60分講義。</p>
<p>平成26年8月</p>	<p>・第6回佐賀病院周産期セミナー。(於 国立病院機構佐賀病院)。「HTLV-1抗体陽性妊婦への栄養方法の選択</p>	

		支援」約50名の医療従事者（産科領域）対象に60分講義、質疑応答を行った。
職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師免許</li> <li>・保健師免許</li> <li>・臨床心理士資格取得</li> <li>・公認心理師免許</li> <li>・修士(農学)</li>   <li>・修士(文学)</li> </ul>	平成18年4月 平成18年4月 平成24年4月 平成31年2月 平成8年3月  平成23年3月	看護師籍 第1344411号 保健師籍 第134268号 日本臨床心理士名簿登録 第25389号 公認心理師登録 第3907号 九州大学 農修第2467号 修士論文名「カンショのスクロースシンターゼのcDNAクローニングと発現様式に関する研究」 九州産業大学 第002311号 修士論文名「子育て支援における生活の中のコミュニティづくりに関する一事例の検討」
2. 特許等		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人多布施クリニック保健師業務</li>   <li>・佐賀市、多久市保健師</li>   <li>・佐賀大学医学部附属病院臨床心理士</li>   <li>・香川大学医学部附属病院がんセンター臨床心理士</li> </ul>	平成18年4月～平成20年7月  平成20年～平成21年  平成24年4月～平成26年4月  平成26年7月～現在に至る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科保健師業務（診療補助、精神科デイケア、精神科訪問看護、社会復帰訓練）に携わった。</li>   <li>・非常勤保健師として地区担当保健師、母子保健、精神保健、特定健診業務に関わった。</li>   <li>・佐賀県の事業によるHTLV-1に特化した専門外来の開設、運営に関わった。  感染者や家族、患者のカウンセリング、県内医療従事者向けの教育講演、子育て支援連絡協議会へ出席し、情報共有を行った。</li> <li>・血液内科病棟をはじめ、入院患者の心理支援、スタッフへのコンサルテーションを実施した。</li>   <li>・腫瘍内科における診療補助、がんゲノム医療、遺伝性腫瘍に関連したコーディネーター業務（看護・検査部門・複数診療科・医事課等、院内外関係部門との連絡調整。令和2年3月 日本遺伝性腫瘍学会認定遺伝性腫瘍コーディネーター取得）。</li> <li>・がん患者のカウンセリング（腫瘍内科、産婦人科、乳腺外科等）、症例検討カンファレンスに出席、心理職としてコンサルテーショ</li> </ul>

		<p>ンを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアチーム臨床心理士として、コンサルテーション、該当患者またはスタッフの心理支援。</li> <li>・臨床遺伝ゲノム診療科月例ミーティングに参加。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て・女性相談業務</li> </ul>	<p>令和4年4月～現在に至る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸亀市丸亀市子育て支援総合相談窓口 NPO 法人グランマールにおいて月あたり1日～半日程度、子育てや女性の自立等に悩む母親のカウンセリング、子育て座談会、市民向け子育てコラム執筆を担当している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者会、一般向け講演</li> </ul>	<p>平成27年12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人スマイルリボン設立10周年記念事業 HTLV-1 講演会, 2015年12月26日, 会場:福岡市ふくふくプラザ・ふくふくホール 「HTLV-1 に関連した不安によりそう心理的サポートの紹介.」30分講演。</li> </ul>
	<p>平成31年3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「HTLV-1の疫学研究及び総合対策に資する研究」研究助成事業, 妊婦健診の疑問を解決 「HTLV-1」ってな～に?講演会 会場:キャンパスプラザ京都 「HTLV-1 に関連した不安によりそここのサポートの紹介」. 30分講演</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術集会におけるシンポジスト発表後総合討論を行った</li> </ul>	<p>令和4年9月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第36回日本母乳哺育学会学術集会シンポジウム2 家族ぐるみで考える HTLV-1 感染 2022.9.18. 会場:長崎大学 演題名「HTLV-1 キャリアへのカウンセリングの意義と問題点.」</li> </ul>
	<p>令和4年6月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回日本がんサポーターズケア学会. 委員会企画シンポジウム1. がんサポーターズケアを着実に届けるための多職種チームケアと地域医療連携の実現に向けて. 会場:海峡メッセ下関 演題名「チーム医療における心理士からのアプローチ」</li> </ul>
	<p>平成27年6月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第62回日本小児保健協会学術集会シンポジウム4, 会場:長崎ブリックホール 演題名「HTLV-1 キャリアマザーの心によりそう支援から考えるネットワーク」</li> </ul>
	<p>平成26年8月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本心理臨床学会第33回秋季大会実行委員会企画シンポジウム1 多職種との協働 -</li> </ul>

		「子ども」の領域における心理臨床家の役割。 会場:パシフィコ横浜 演題名「ヒトT細胞白血病ウイルス母子感染予防事業における協働」
4. その他 研究活動に関する事項 1, 平成 27 年度～平成 30 年度 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業） HTLV-1 キャリアと ATL 患者の実態把握、リスク評価、相談支援体制整備と ATL/HTLV-1 感染症克服研究事業の適正な運用に資する研究  2, 令和 2 年度～令和 5 年度 厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業） HTLV-1 母子感染対策および支援体制の課題の検討と対策に関する研究  ・ 佐賀県臨床心理士会倫理部会担当理事  ・ 香川県臨床心理士会広報担当理事  ・ 香川県臨床心理士会事務局長	平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月  令和 2 年 4 月～令和 5 年 3 月  平成 27 年 4 月～平成 28 年 6 月  令和 3 年 6 月～令和 4 年 5 月  令和 4 年 5 月～現在に至る	研究協力者 (HTLV-1 キャリア相談支援体制整備に資するニーズの収集と患者支援体制整備提言作成に関わる)  研究協力者（厚生労働省科学研究班による HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル第 2 版執筆、教育用動画作成に関わる）  倫理問題関連業務 (研修会開催、会員の相談等) を担当した。  広報担当理事として会のニューズレター発行業務 (年 2 回)、ホームページ管理 (研修会情報、求人情報等掲載) を行った。  ・自治体をはじめ、外部と団体の交渉窓口業務。団体に対する質問や要請に対応し、会員への情報提供、会員派遣調整、会員同士の交流促進を図る。香川県自殺対策連絡協議会 (令和 4 年 11 月 18 日開催) に出席。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の	概要

			名称	
(著書) 1 2				
(学術論文) 1 柘植薫. HTLV-1 キャリアへのカウンセリングの意義と問題点. -HTLV-1 専門外来の経験から-	単著	令和5年	日本母乳哺育学会雑誌 (投稿中)	佐賀県では平成 24 年度から「HTLV-1 専門外来」設置事業によって、HTLV-1 キャリア・HTLV-1 関連疾患有病者やその家族、妊婦に対する健診や相談を行っている。受診者から他医療機関との連携を望む声が多かった。心理専門職は医療機関以外の地域で従事しているため、相談機関をつなぐ役割について考察した。
1 柘植薫. HTLV-1 キャリアへのカウンセリングの意義と問題点.	単著	令和4年8月	日本母乳哺育学会雑誌 16(1): 40-41	HTLV-1 は白血病や神経難病の原因ウイルスで、母乳育児や性交渉によって感染し、現在のところ体外から消失させる方法は確立されてない。2012 年から開始された政策によって、妊娠時に感染が判明した妊婦は説明を受けた後に母乳制限するか否か判断を必要とされる。その場面に関わる医療従事者や産後に関わる支援者に必要な姿勢や多職種連携の重要性について記載した。
2. 村上あきつ, 岡田真樹, 西内崇将, 奥山 浩之, 大北 仁裕, 羽床	共著	令和4年10月	日本老年医学会雑誌. 59(4):595	COVID-19 感染下では入院患者の面会が厳しく制限されるため、終末期の患者は在宅以降のタイミングが非常に重要となる。胃がん脳転移患者の終末期医療

<p>琴音, 喜田行洋, 小田優子, 柘植薫, 辻晃仁. 脳外科診療可能な地域の医療施設と終末期医療連携した胃癌, 脳転移, 硬膜外膿瘍の独居高齢者の1症例.</p>				<p>が、地域の脳外科診療と連携をとることで可能となった症例を報告した。</p>
<p>3. 村上 あきつ, 柘植 薫, 辻 晃仁 医学部臨床心理学科での緩和医療学講義・実習の現状</p>	共著	令和4年6月	Palliative Care Research, 16:S406	<p>当学では国立大学医学部で初めて心理専門職を養成する臨床心理学科が開設された。臨床心理学科3年生に対する緩和医療の授業では、学生の関心は高く、専門課程の教員からも期待が高かった。今後の養成課程において多職種連携の視点や緩和医療に用いる薬剤の知識など、必要な教育の展望について考察を行った。</p>
<p>2 柘植薫, 末岡榮三朗 妊娠から子育て期にあるHTLV-1キャリアの母乳制限に伴う母親の気持ちや相談の在り方に関する一考察. (査読付)</p>	共著	令和2年12月	助産雑誌 74(12): 930-935	<p>HTLV-1を特化した専門外来を受診した妊婦約70名を対象にキャリアの不安や支援体制に対するニーズを明らかにすることを目的に質問紙による調査を行った。キャリアの相談する場所が限定されていることへの負担感、母乳育児が十分できないことへの辛さ、孤独感が存在することや専門外来と産科施設との連携を望む声があり、支援者教育、地域連携を強化する必要性が示唆された。</p>
<p>3 柘植薫. キャリアマザーに対する臨床心理学的アプローチ - HTLV-1がキャリアマザーに</p>	単著	令和2年11月	周産期医学 50(10): 1730-1733,	<p>妊婦健診で突然HTLV-1キャリアと判った妊婦は、自身の感染ルートは曖昧でありながら、次世代へ感染させないために母乳制限について決定を迫られ、心理的に不安定な状況に置かれたり、産後数十年経過したキャリア</p>

及ぼす心理的影響について.				アから長年相談できずに過ごしていたという声が聴かれる現状がある。キャリアの労をいたわる心理面接が有効である場合がある。
4 末岡榮三朗, 柘植薫. HTLV-1 キャリア相談体制支援の現状.	共著	平成 29 年 6 月	日本内科学会雑誌 106(7): 1383-1390	妊婦健診においてヒト T 細胞白血病ウイルス 1(HTLV-1)検査が必須項目となり、妊婦健診で判明したHTLV-1キャリア妊婦に対する相談支援体制の構築が必要となった。当初、キャリアの一次相談窓口としての保健所が想定されたが、キャリアが求める相談内容は多彩であり、保健所だけでは解決できない問題も多い。地域の期間施設との連携を基盤とした相談窓口の整備が必要である。
5 柘植薫. HTLV-1 キャリアアマザーの心によりそう支援から考えるネットワーク.	単著	平成 27 年 5 月	日本周産期・新生児医学会雑誌 51(1): 73-75,	HTLV-1 キャリアは生涯にわたって感染しているため、妊娠中にキャリアと判明した人が自分の子どもが結婚適齢期を迎えたり、孫の出産の際、感染に対する不安が増大することがあり、生涯相談できる体制が必要である。一方で、相談のための人材確保や運営の困難さが存在することからインターネット等による相談体制の集約が求められる。
6 柘植薫. HTLV-1 キャリア妊婦支援のための臨床心理士の役割	単著	平成 27 年 11 月	小児保健研究 74(6): 815-817,	近年、母乳育児を希望する妊婦が増え、妊娠中に HTLV-1 キャリアと判った妊婦は母乳育児への無念さを抱き、出産後、母乳育児ができない状況を周囲へ打ち明け辛く、孤独を抱えやすい現状がある。妊婦の気持ちに寄り添う支援の在り方が必要である。

<p>7 <u>柘植薫</u> HTLV-1 キャリア女性の心理的葛藤と必要なフォロー.</p>	<p>単著</p>	<p>平成 26 年 1 月</p>	<p>助産雑誌 68(1): 27-31,</p>	<p>2012 年から妊婦健診における HTLV-1 スクリーニング検査が開始された。妊娠中突然感染を知った妊婦は精神的なショックを受ける。母乳育児のメリットと感染予防の観点から揺れ動く心理状態となる。助産師は周産期の母親にとって頼りになる存在で、母乳育児を行わないキャリアへの精神的な支えとしての存在が求められる。</p> <p>妊娠中の感染症が胎児や出産後の子どもに影響を及ぼす際、母親は自責の念に駆られたり、母親としての自信を無くしたり、周りの心無い言葉に傷つくことがある。妊娠中は精神的に不安定になることもあり、問題解決だけでなく、情緒的に安心を齎す支援が求められる。</p>
<p>8 <u>柘植薫</u> 感染してしまった妊婦の心のケア.</p>	<p>単著</p>	<p>平成 25 年 7 月</p>	<p>助産雑誌 67(7): 544-548</p>	<p>妊娠中の感染症が胎児や出産後の子どもに影響を及ぼす際、母親は自責の念に駆られたり、母親としての自信を無くしたり、周りの心無い言葉に傷つくことがある。妊娠中は精神的に不安定になることもあり、問題解決だけでなく、情緒的に安心を齎す支援が求められる。</p>
<p>(その他) 学会発表 1 <u>柘植薫</u> HTLV-1 カウンセリングにおける心理専門職の具体的な活用に関する検討. 第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会.</p> <p>2 奥山浩之, 塚本汐奈, 村上あきつ, 大北仁裕, <u>柘植薫</u>, 米原優香, 隈元謙介, 辻晃仁 膵がん患者における <i>BRCA1/2</i> 遺伝学的検査の現状</p>	<p>-</p>	<p>令和 4 年 11 月</p>	<p>第 8 回日本 HTLV-1 学会学術集会 (於: 東京都)</p> <p>第 118 回日本消化器病学会四国支部例会 (於: 徳島市)</p>	<p>心理専門職は福祉・教育・医療分野で活躍している。HTLV-1 キャリアは未病であることから、相談先として医療機関以外の心理専門職のカウンセリングの活用が期待できる。</p> <p>生殖細胞系列 <i>BRCA1/2</i> 遺伝子病的バリエントを有する膵がんに対する維持療法として Olaparib が保険承認された。遺伝学的検査を行う上では遺伝カウンセリングや血縁者への対応が十分に行える体制作りが重要である。当院では膵がん患者の 8.5% が <i>BRCA1/2</i> バリエントを有していた。臨床遺伝ゲノム診療科を中心に個別化医療を進めている。</p> <p>過去 3 年間に当院で 9 家系のポ</p>

<p>3 隈元謙介, 花岡有為子, 鶴田智彦, 佐藤優香, 近藤彰宏, 浅野栄介, 小林伸也, 小原英幹, 柘植薫, 奥山浩之, 阿部宣子, 紺谷桂一, 岡野圭一, 金西賢治, 辻晃仁. 当院におけるポリポーシス症候群の経験</p>	-	令和4年6月	第28回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 (於:岡山市)	リポーシス症候群が報告されている。近年、ガイドラインが上梓され、診断は容易に行われていると考えるが、長期のサーベイランスが必要であり、診療科横断的にマネジメントすることで適切な検査や治療を提供することができる。と考える。
<p>4 柘植薫 HTLV-1 キャリア・関連疾患患者援助に求められる心理職の役割について.</p>	-	令和3年12月 (於 オンライン)	第1回日本公認心理師学術集会.	HTLV-1 キャリア・関連疾患患者の相談体制を多職種で構築する取り組みの中で、子どもの検査を受ける前の母親や水平感染に関して悩んでいる人に対し、心理職による関わりが必要と医師や看護師からの意見があった。
<p>5 柘植薫, 奥山浩之, 羽床琴音, 村上あきつ, 大北仁裕, 西内崇将, 三木晃子, 重田宏恵, 松永徹, 花岡有為子, 隈元謙介, 羽場礼次, 辻 晃仁. 地方におけるがんゲノム医療拠点病院の役割と課題</p>	-	令和3年2月 (於 オンライン)	第18回日本臨床腫瘍学会学術集会.	患者や地域のかかりつけ医にはがんゲノム検査が十分に知られておらず、がんゲノム医療拠点病院に承認された当院には検査実施とともに啓発活動が望まれていた。院内で検査に関わる看護師、検査技師、心理職の役割や活動から、がんゲノム医療は診療科や職域を超えたがん治療の中核となり、地域の病院でも重点的にとりくむべき医療であることが示唆された。
<p>6 柘植薫、豊田梨沙、末岡榮三朗 妊婦健診におけるHTLV-1抗</p>	-	平成30年8月 (於 東京)	第5回日本HTLV-1学会学術集会	専門外来を受診した妊婦70名に対し質問紙を用いた調査を行ったところ、HTLV-1 キャリアの8割が外来を受診して良かったが、半数が悩みはなくなること

<p>体検査陽性者相談体制の検討。当院外来受診妊婦に対する質問紙調査より。</p>				<p>はないので継続して受診したいという結果であった。</p>
<p>7 <u>Tsuge K.</u> and <u>Sueoka E.</u>: Demands of counseling supports for HTLV-1 infected pregnant women in Japan. ,</p>	-	<p>March 7-10, 2017, Tokyo, Japan.</p>	<p>18<sup>th</sup> International Conference on Human Retrovirology HTLV and Related Viruses,</p>	<p>日本ではHTLV-1の母子感染予防のための授乳方法は粉ミルク、3か月に限った母乳、冷凍母乳の方法がある。産後の授乳方法に関しては、医療者の考えを強要することなく、母親本人の自主性を大切にしたい意思決定支援が重要であることが示唆された。</p>
<p>8 <u>柘植薫</u>, <u>末岡榮三朗</u>. カウンセリング機能を併設した「HTLV-1専門外来」の活動から見えてきたもの.</p>	-	<p>平成 28 年 8 月 (於 鹿児島)</p>	<p>第 3 回日本 HTLV-1 学会学術集会,</p>	<p>地方に開設した相談外来であったが、対面、電話相談は所在地に関わらず希望者が存在した。直接相談に関わったことがあるスタッフへ相談したいというニーズがあった。</p>
<p>9 <u>柘植薫</u> HTLV-1 キャリア相談において臨床心理士が果たす役割 ウイルスキャリア妊婦に対する面接を通して.</p>	-	<p>平成 27 年 9 月 (於 兵庫)</p>	<p>日本心理臨床学会 第 34 回秋季大会,</p>	<p>HTLV-1 キャリアの中には、肉親を成人 T 細胞白血病で亡くした人がいる。発症後急激に症状が悪化した様子の記憶によって、恐怖感を時折抱き、自身の健康に自信を失ったり、医師の説明をどうしても受け入れられないことがあり、本人の価値観十分に理解した心理支援が必要となる場合がある。</p>
<p>10 <u>柘植薫</u>, <u>木村晋也</u>, <u>末岡榮三朗</u>. HTLV-1 専門外来における心理面接の特徴と心理支援の必要性.</p>	-	<p>平成 26 年 8 月 (於 東京)</p>	<p>第 1 回日本 HTLV-1 学会学術集会,</p>	<p>HTLV-1 はキャリアである母親が長期に母乳を与えないことで感染率を低減させるが、完全人工栄養でも感染率は 0 ではないことから、母乳育児のメリットを尊重したいと考える妊婦は授乳方法について葛藤や疑問を抱く。各自の意思を確認できる相談の場が求められていた。</p>

<p>11 柘植薫, 末岡榮三朗. カウンセリング機能を備えた「HTLV-1 ウイルス専門外来」の運用.</p>	-	<p>平成 25 年 9 月 (於 大阪)</p>	<p>第 26 回サイコオンコロジ学会,</p>	<p>成人 T 細胞白血病は予後不良の血液のがんで、主に母子感染が原因といわれている。キャリアの多くは関連疾患を生生涯発症しないが、発症後すると急激に病状が悪化することから、家族が HTLV-1 に対して恐怖感を覚えることも多い。関連疾患について経験のない医療者も多く、専門外来の必要性が患者や医療者からも求められている。</p>
<p>12 柘植薫, 木村晋也, 末岡榮三朗. HTLV-1 専門外来における母子感染予防のためのカウンセリング機能の重要性.</p>	-	<p>平成 25 年 8 月 (於 宮城)</p>	<p>第 11 回日本臨床腫瘍学会学術集会,</p>	<p>2012 年に開設した HTLV-1 専門外来の 2013 年 7 月までの外来新規受診者は 79 名で、そのうち妊婦は 19 名であった。受診者のアンケートでは子どもの検査をいつ受けさせたら良いかという質問が 19 人中 15 人という結果であった。陽性と判明したキャリアの相談は、授乳方法だけでなく産後の相談継続の必要性が示唆された。</p>
<p>13 柘植薫, 木村晋也, 末岡榮三朗. HTLV-1 専門外来における HTLV-1 陽性妊婦へのカウンセリングの現状.</p>	-	<p>平成 25 年 8 月 (於 宮城)</p>	<p>第 6 回日本 HTLV-1 研究会・シンポジウム,</p>	<p>2011 年により HTLV-1 総合対策によって妊婦健診全例で HTLV-1 スクリーニング検査が行われるようになった。佐賀県では陽性妊婦に対して心理面もサポートできるカウンセリング体制を整備した外来が開設された。判定保留となった妊婦や里帰り出産のケースでは、検査に関する丁寧な説明や検査スケジュールの確認が必要であった。</p>
<p>14 柘植薫, 久保田寧, 福島伯泰, 木村晋也, 末岡榮三朗. HTLV-1 専門外来におけるカウンセリング</p>	-	<p>平成 25 年 6 月 (於 横浜)</p>	<p>第 61 回日本輸血・細胞治療学会総会,</p>	<p>当院では 2012 年に血液内科医師と臨床心理士が協働して HTLV-1 専門外来が開設された。受診者に対する医学的な説明に加え、心理面のサポートを特徴とし、ホームページやパンフレットを作成して県内産科施設へ協力を依頼した。電話や出張外来によって継続的な面談や検査結果の説明を行うことで、キャリアが</p>

<p>体制の整備と運用状況.</p> <p><b>企業共済セミナー</b> 奥山浩之、重田宏恵、<u>柘植薫</u> がんゲノム医療における、最適な治療選択のための多職種連携の極意（胆道癌を例として） 奥山浩之、重田宏恵、<u>柘植薫</u></p> <p><b>作成資料</b></p> <p><u>柘植薫</u>. HTLV-1 母子感染予防対策マニュアル（第2版）</p>	<p>-</p> <p>共著</p>	<p>令和4年6月</p> <p>令和4年11月</p>	<p>第7回日本がんサポーターズケア学会 共催企画セッション2 共催：インサイトバイオサイエンス・ジャパン 会場 下関市</p> <p>厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）HTLV-1 母子感染対策および支援体制の課題の検討と対策に関する研究</p>	<p>相談しやすい体制づくりを行った。</p> <p>本人発表分 「がんゲノムコーディネーターの立場から」 チーム医療はその施設にあったチームを探索し、よりよい実現可能なチームを構築していくことの重要性について発表。</p> <p>本改訂版マニュアルでは、科学的エビデンスをもとに、母親が自身の意思に基づいて栄養方法を選択できるように支援するとともに、選択した栄養方法に関わらず全ての母親と児に対してきめ細やかな支援とフォローアップ体制を行き届かせることを意図して全面的な改訂が加えられた。</p> <p>本人担当分： p. 37-39 第3章 妊婦に対するHTLV-1 スクリーニング検査 V. 自身がキャリアと診断された妊婦に対する心理的サポート p. 49-57 第4章 出生後の母子感染予防のための栄養方法の選択 IV. 各栄養方法の支援体制 V. 心理的サポートやカウンセリングについて p. 61 第5章 出生後のフォローアップ</p>
---	--------------------	------------------------------	---	--

<p>HTLV-1 キャリア登録サイト 「キャリねつと」コラム</p>			<p>厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業） HTLV-1 母子感染対策および支援体制の課題の検討と対策に関する研究</p>	<p>Ⅲ. 児の抗体検査についての意思決定支援 p. 64-65 巻末資料 2 HTLV-1 関連疾患患者、HTLV-1 キャリア及び家族を対象とした心理学的なカウンセリング</p> <p><a href="https://htlv1carrier.org/">https://htlv1carrier.org/</a> 第 84 回「HTLV-1 キャリアマザーの心とともに」 第 13 回「HTLV-1 キャリア妊婦さんとカウンセリング」掲載分</p>
---	--	--	---	--